



二条城前を行くN電、架線の電柱センターポールが特徴的

N電が走る風景2（堀川通）昭和36年7月 吉岡 義彦さん

写真は堀川通りを走る通称「N電」、市電の北野線です。京都駅前から西洞院通を上がり、四条を西へ、堀川東側通を上がり、中立売から西へ北野の天神さんまでを走る狭軌の小さな市電でした。

お客さんが乗り終わると、出発の合図で車掌が紐を引いて警鈴を「チンチン！」と鳴らしたのでチンチン電車とも言います。運転台の横に窓はなく吹き曝しで、雨や雪の日などは運転士が外套を着ていました。客室定員数が少なく、あふれた客は後方の乗り降りデッキにぶら下がっていました。また、車体が四輪と少なくデコボコした路面では、とても揺れた等などの記憶があります。

堀川通の通りの由来となった堀川には川の流れがまだあり、大雨が降ると溝の中に詰まっていたボールが、一斉に流れてきて子ども達がそれを拾いに行くということもありました。今から思うと危険なことをしていたなと思います。



写真上 向こうに見えるのが中京
消防署の火の見やぐら



写真左 N電の運転台はドアも窓
も無い。ブレーキはレバー
をグルグル回して止まる。

写真下 堀川には当時、川の流れが
あった。

